

『不思議な地藏様』

何年前の話か、知らないが。昔、飯川の人たちが、現在の鹿島町の石動山へ、たくさん山仕事に行かれたそうです。

ある時、仕事をしていると、笹原の中に、草が盛り上がっているところがありました。「何であろう。」と思い、笹や草を取り除きました。すると、草の下から、りっぱな、きれいな優しい顔をした『地藏様』というか、『石仏』というか…が、横に転がっているのを、守沢太一郎さん(右門次郎くよもじろう)さんが、見つけました。「これは、もったいない。」と、付近の笹や草を刈り、正座して、それを、起こしておきました。



しかし、太一郎さんは、気になって。仕方がありませんでした。「…私が見つけたのだが…、何か、関わりがあるような気がして…」と、仕事が手に就きませんでした。

夕方、太一郎さんは、仕事が終わりに、帰宅の際に、「この『お地藏様』を、ここに置くのは、気懸かりだから、家へ持ち帰る。」と言い出しました。他の人たちは、「この『お地藏様』は、重くて、もって帰られない。」と、再三、止めました。しかし、太一郎さんは、『地藏様』を荒縄で縛り、背負って、みんなと一緒に、山を下りました。

太一郎さんは、重いとか、苦しいとか、一言も口にせず、足も軽く、トントンと、みんなと同じくらいに、山を下っています。他の人たちは、「もう、代わって担いでくれないか。」と言い出すのを待っているが、太一郎さんは、黙々と如何にも平気そうです。『地藏様』は、背丈四〇センチ、前と後ろの厚み一〇センチくらいで、重量にして、約一五キロくらいありました。

見かねて、「右門次郎さん、えらい元気やね。ちょっと代わろうか。」と質すと、「いや、大したこともないよ。家まで行かれそうや。」と応えて、山を下って行きました。

後日、その『地藏様』は、右門次郎さんの基地(石畑)に、一緒に並べて、安置してありました。

それが、今から三十五年前(昭和三十年頃)、どうしたのか、その『地藏様』の首が、落ちているのを、町の人たちが見つけました。その当時、右門次郎さんの方は、都合により、名古屋の方面に引っ越され、また、飯川には、土地改良組合ができて、耕地整理をするはこびになり、この石畑の基地も、移転させるやむなきにいたりしました。

この話を聞いた若林の平木貞吉さんは、「なんと、もったいないことであろう。今後は、私がお守りしましょう。」と、首の落ちたのを修復しました。現在、その『地藏様』は、平木さんの屋敷内にりっぱな祠が建てられ、その中に安置されてあります。

これは、竹坊信子さんの話を、まとめて書いたものです。

